

愛知県環境影響評価審査会セントレア滑走路増設部会 会議録

1 日時 2023年（令和5年）5月12日（金）午後3時から午後3時30分まで

2 場所 愛知県環境調査センター1階 第1会議室

3 議事

- (1) 部会長の選任について
- (2) 中部国際空港滑走路増設事業に係る環境影響評価方法書について

4 出席者

(1) 委員

大石部会長、片山委員、橋本委員

【オンライン出席】

長田委員、中野委員、宮崎委員、義家委員、吉永委員

(以上8名)

(2) 事務局

環境局：近藤技監

環境局環境政策部環境活動推進課：

足立課長、鈴木担当課長、高橋課長補佐、猿渡主査、渥美主査、大島主任

(以上7名)

(3) 事業者等

13名

5 傍聴人

1名

6 会議内容

(1) 開会

(2) 議事

ア 部会長の選任について

- ・ 資料1について、事務局から説明があった。
- ・ 部会長について、大石委員が互選により選出された。
- ・ 部会長代理について、大石部会長が吉永委員を指名した。
- ・ 会議録の署名について、大石部会長が宮崎委員と義家委員を指名した。

イ 中部国際空港滑走路増設事業に係る環境影響評価方法書について

- ・ 資料2から資料5について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

【橋本委員】資料3の4番の事業者見解について、空港建設時のアセスでの予測において、高峯山周辺では、飛行航路と交差する割合が4%から11%とのことだが、10%近くあるというのは必ずしも低い値ではないと感じる。

どれぐらいの数の鳥類がこのルートを渡っているかを常に見ているわけではないと思うが、1日最大何羽ぐらい飛んでいるといった調査結果はあるのか。

【事業者】例えば、中部国際空港株式会社が行った平成21年度の環境の監視結果によると、渡りの時期である9月26日から10月11日まで調査を連続して行っており、その間の合計としてサシバは1,573羽という結果がある。

【橋本委員】常に飛行機が飛び続けているわけではないので、必ずバードストライクが発生するというわけではないが、4%から11%の数は低くはないと思う。

【大石部会長】資料5の部会報告案について、鳥類の調査で、これまでの空港管理の蓄積されたデータ等があるので活用することとある。事業者自身が調査した分は簡単に参照できると思うが、他の機関等が調査したデータも参照できるのか。

【事務局】一般的な状況について説明させていただくと、各事業者が環境影響評価で得た結果は、図書の縦覧中は広く一般的に確認できる状態になるが、そのデータを一元的に管理する仕組みは、現状では整っていない状況である。

先日、環境省の環境影響評価に関する検討会を傍聴したが、環境影響評価の結果や各事業者の環境監視結果が共有できていないとの問題提起がされており、部会長の御指摘の点は今後の課題と考えている。

【大石部会長】バードストライクについては、風力発電施設での事例があることから、県の方でもそういったデータを活用していくような方策を考えていただきたいと思う。

【片山委員】データの活用に関連して、方法書の43ページにある表4.3-1「鳥衝突率」では、大阪国際、東京国際、新千歳、那覇、福岡、成田国際、関西国際のデータが掲載されており、国土交通省のホームページにあるデータを全部集約することはできないのか。

【事務局】各飛行場のバードストライクの状況については、国土交通省が定期的に各空港管理者を集めて、データやバードストライクを防止するための取組を共有する検討会が行われていると認識している。

【事業者】方法書43ページのデータについては、航空会社から収集したデータを国土交通省がデータベースで管理し、結果としてホームページで公開しているものであり、事業者として今回の予測などに利用できるものと考えている。

【大石部会長】現在は、インターネットを通してデータを共有することが可能だと思うが、より深い分析や共有をしようとする場合には、担当者同士で時々顔

を合わせて話をする場があるといいと思う。

【大石部会長】事務局から説明のあった部会報告（案）について、特段、修正を要する意見はないため、この案のとおり部会報告としてよろしいか。

（委員から意見等はなし）

【大石部会長】異議なしとされたので、このまま部会報告とする。

- ・ 資料5の「中部国際空港滑走路増設事業に係る環境影響評価方法書についての部会報告（案）」を、このまま部会報告とすることです承された。

（3）閉会